



6月 町屋幼稚園だより

令和8年5月29日

荒川区立町屋幼稚園

園長 浪江 泰弘

広がる遊び・学びの世界

園長 浪江 泰弘

衣服が薄手になり、子どもたちの装いもすっかり夏らしくなりました。

先日は、お忙しい中「親子遠足」にご参加いただき、誠にありがとうございました。お天気にも恵まれ、お家の方と一緒に満面の笑みで過ごす子どもたちの姿を見ることができ、職員一同、大変嬉しく温かい時間を共有させていただきました。保護者の皆様の温かいサポートとご協力に、心より感謝申し上げます。

いるか組の生活が2か月を過ぎ、子どもたちは、今、友達との関わりが一段と深まり、遊び・学びの世界をぐんぐんと広げています。

年中組では、小さい積み木で遊んでいましたが、いるか組になり、大きな積み木で遊ぶことができることになりました。「ここをつなげて、大きなお家になろう！」と、友達同士で言葉を交わしながら、ひとつの大きな家や街へと発展させています。また、収穫したそら豆を見て、「そらまめくんを作りたい」と、ある園児の発言から、学びが広がることもあり、子どもたちの発想力、想像力には毎日驚かされるばかりです。

6月は、ひとりの「やってみたい」がお友達に伝播し、どのような遊び・学びへと広がっていくか楽しみです。私たちはそのキラキラした瞬間を大切に見守り、必要な素材をそっと補いながら、主体的な育ちを支えてまいります。

《今月のねらい》

【年 長】○思ったことや感じたことを出し合いながら、友達と遊びを進めていく楽しさを感じる。

○初夏の季節の変化に気付き、自然に触れたり遊びに取り入れたりする。



たくさん収穫できました！

町屋幼稚園では恵まれた自然環境を生かして、自然と直接的に触れる活動を長年に渡って行っています。今年も子どもたちが大切に育ててきたたくさんの野菜や果物が収穫できました。イチゴやソラマメは数を数えながら大切に収穫して、おいしく食べました。昨年度から栽培してきたタマネギもたくさん収穫でき、みんなで相談してハヤシライスを作って食べることにしました。ルーなどの材料を自分たちで地域のスーパーに買い物に行き、調理をして食べる場所までの貴重な経験をすることができました。幼児期に実際に身体いっぱい様々な環境に触れて、美しさや不思議さなどいろいろな感情を味わう経験を積み重ねることは、小学校以降の生活や学習において自然の事象や現象について関心をもち、その理解を確かなものにしていく基盤となっていきます。これからも自然との関わりを思い切り楽しめるような環境を構成し、子どもたちの豊かな感性を育てていきます。



町屋幼稚園の歴史探訪 ②

昭和26年の開園以降園児数が増え、昭和39年(1964年)、園児の定員は80名から120名に増えました。昭和40年には第七峽田小学校校舎改築のため木造園舎に移転。当時は年少(現在の年中組)さくら組・年長すみれ組・きく組の2学年編成でした。昭和49年、現在まで受け継がれる独立鉄筋2階建ての園舎が完成。開園25周年記念式典と園舎落成式が行われ、元気な子どもたちの声が響き渡りました。



鉄筋園舎への建て替え工事の様子